

藏人民部權少輔藤原資賴奉

〔増鏡^{老十}の波〕八月^〇二年^{弘安}御子の御ありきぞめとて、万里小路殿にわたらせ給ふ^〇中そのころけんやく行はるとかや聞えしほどにて、下すだれのみじかくなされ小金物ぬかれける物見車どももの召次よりて、切などしけるをぞ、時しもや、かゝるめでたき御事のおりふしなど、いふ役人もありけるとかや、

〔令義解^七公式〕凡行程^〇註馬日七十里、步五十里、車卅里、

〔延喜式^{三十四}車載^{木工}〕

舊材積三万材^{除彫}雜材積二万七千材^{但飛檐簀子等}、楯樽十六材、瓦瓦一百二十枚、筒瓦一百四十

枚、鏡瓦八十枚、宇瓦六十枚、大坂石積七千九百二十材^{小石九}、讃岐石積六千三百材^{小石七千}、白土

三石三斗、藁五十圍、四尺檜皮十二圍、三尺檜皮十八圍、各載一輛^{賦減三}、^{分之二}

凡山城國大井津雜材木直、并車賃錢者、五六寸步板、一丈四尺柱、直各四十五文、樽一材直九文、簀子

一丈二尺柱、直各二十六文、自同津至寮車一輛賃五十文、

〔三代實錄^{十一}清和〕貞觀七年九月十五日癸巳、太政官下知彈正臺、左右京職、山城、攝津、伊賀、近江、丹波、播

磨等國禁材木短狹、及定車載法^〇中車荷者、量材長短、先有制法、今舉不法、既責輕薄、運載之法、何

應一同須、楯樽卅二材、步板八枚、簀子十枚、以此爲定^〇下

〔享祿本類聚三代格^{十八}〕太政官符

禁制材木短狹及定不如法材車荷事

右太政官去貞觀七年九月十五日、下諸國符^〇中其車荷者、量材長短、先有制法、今舉不法、既責輪

薄、運送之法、何應一同、仍須楯樽卅二材、步板八枚、簀子十枚、以此爲定、復舊之後、改從恒例、不得因此

更令濫吹、長官相承、嚴加督察、勝示山口、分明令知者、被大納言正三位兼行左近衛大將藤原朝臣氏